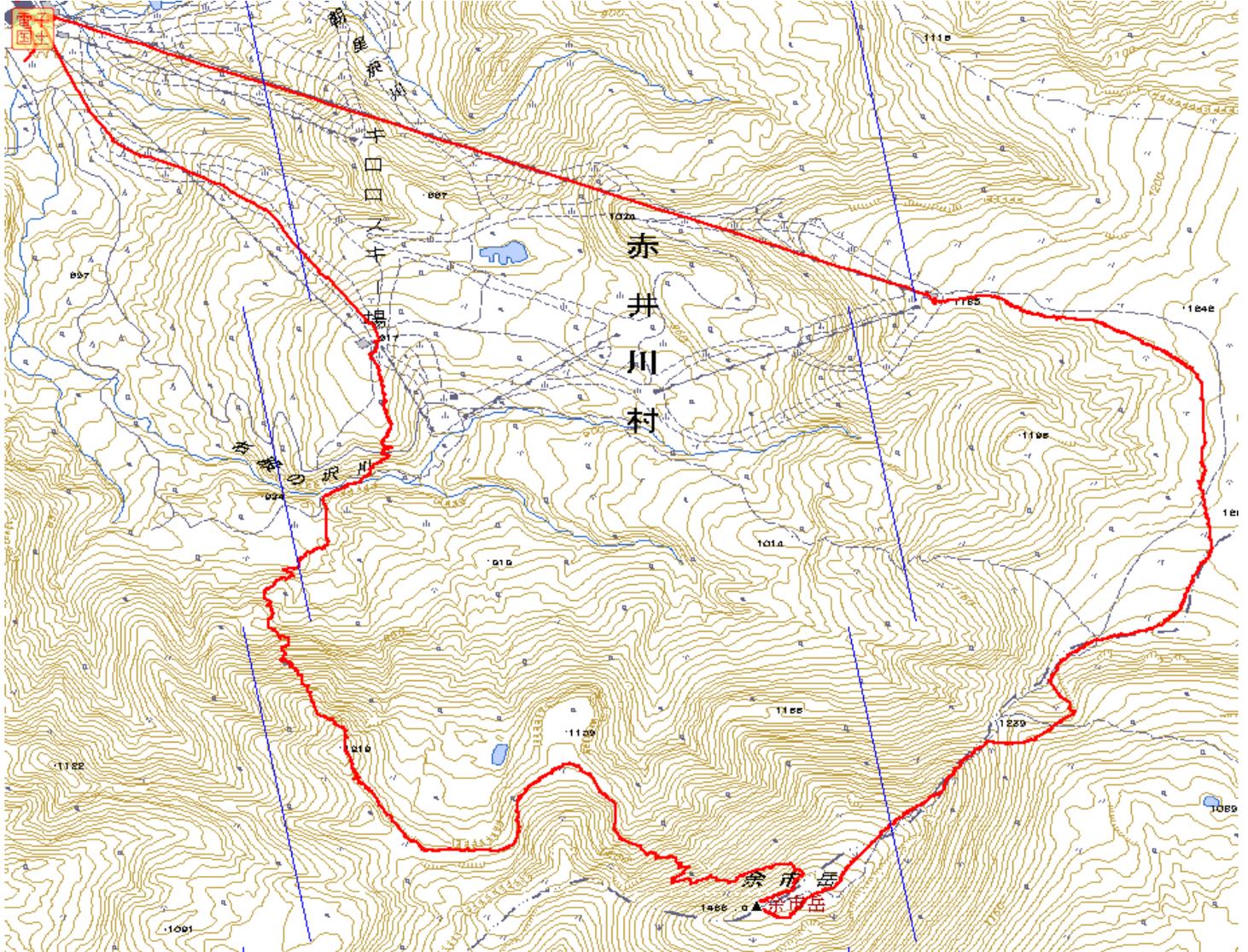


余市岳周辺日帰り縦走

長倉 冬彦

本日は、5名パーティーの予定だったが、2名は都合が悪くなり不参加、集合場所のキロロスキー場に、3名が集合した。ところが武さんが、ビーコン忘れてしまい、帰ってしまった。

参加者メンバー L 三佐川 長倉



キロロスキー場のゴンドラに乗る前、余市岳山頂方面も見上げると、ゴンドラ周辺からコルの辺りにかけては、ガスっていたが、山頂周辺は、晴れていた。

ゴンドラから降りると、下から見たとおり、ガスっており視界があまりきかなかつた。風も強めであった。

視界20m程のガスの中をルートロスしないよう進んだ。回りに他もパーティーもないが、CATやスキーのトレースが残っていた。

コルに下る手前あたりで、数人のパーティーが夏尾根ルートで登ってきた。視界がきかないので、少しタイミングがずれていれば、見えなかっただろう。

コルへの下りは、気をつけてゆっくりだったが、南西側にまっすぐ降りるべきところを南東側におりてしまった。(GPSトラックで確認できるかと思います。)

余市岳ピークに着いた途端、猛烈に風が強くなった。ぬるめの南風が、ガスとともに吹き上げてくる。長居をしたくない状況だった。

さて、北西側の急斜面にすべり降りられるはずではあるが、ガスのため真っ白で斜面が見えない。何も見えない急斜面に突っ込む事もできず。登ってきた道を引き返そうか迷いながらじわじわと引き返していたら、ガスが少し晴れて斜面が見えた。充分下れると判断し、シールを剥がして下りはじめる。

かなりカリカリの斜面でターンしてみたら、エッジがバリバリ引っかかる感じで、転んでしまった。ゴロンと一回転し、すべり落

ちる。止まらない～！わけではなく止まった。それほどの急斜面ではない。少し下ると晴れ模様となった。ガスがかかっていたのは、山頂周辺だけだったのだろう。

その後、ひたすら西側にトラバース気味に下り、1109に続く尾根を巻いて、シールをつけずに登りながらトラバース。1218へ登る手前で、休憩をとる。

この時、余市岳山頂のガスが晴れてきた。(下の写真)



この後、スキーを担いで1216に登る、以前、パウダーの時期に滑った急斜面を滑る。この時期の重めの雪だと、ちょっと難しい感じだった。

下り終わると、三佐川さんがシールを貼ろうとしている。“あれ？前に来た時は、この辺からキロロのセンターハウスに向かって下山した記憶があるが。。”

シールを貼って、沢沿いに少し歩き、リフト終点を目指して尾根に登り到着。わりと近かった。

最後はゲレンデを一気に滑り下り終了。

本日は、バックカントリーというより、縦走と呼んだ方がふさわしいツアーをなった模様。